石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第308号　平成21年6月1日発行

重要美術品　県文　色絵布袋図平鉢　古九谷

ルビーガラス瓶　ドイツ

特別陳列
色絵の系譜　古九谷・再興九谷を中心に　第2展示室

［特集］百万石大名の装い　前田育徳会尊經閣文庫分館

［特集］ガラスのきらめき　第5展示室

- 6月の企画展示室
- 行事案内
- 講演会記録「加賀藩のものづくり工房」
- キッズプログラム参加者募集
- 所蔵品紹介

特別陳列

色絵の系譜

古九谷・再興九谷を中心に

6月5日（金）～7月20日（月・祝）会期中無休

石川県立美術館の古九谷・再興九谷コレクションは全国的に高く評価されており、毎年の展示が楽しみですとのご意見も多くいただいております。今回の特別陳列では、古九谷と再興九谷諸窯に絞って包括的に紹介してきた従来の方針を変えてみました。「なぜ」との疑問が、少しでも「なるほど」とご理解いただければ幸いです。

古九谷は、十七世紀半ばにかけての世界的な色絵磁器への関心の高まりと、加賀藩の文化風土が高度な芸術性を志向しながら融合した結果生まれました。古九谷の加飾様式は色絵、青手に大別されますが、その大胆・斬新な造形感覚は加賀の地に深く根付き、伝統の継承と創造を目指した意欲的な挑戦が再興九谷諸窯を生み、その精神は今日まで力強く息づいています。

本展は、石川県立美術館の所蔵品・寄託品に、県内所在の優品、そして九谷古窯跡から出土した色絵陶磁片を交えて、陶磁史上特筆される独創的な古九谷色絵様式の母胎から展開の軌跡を、約五〇点の作品・資料によってたどるものです。

展示構成は、古九谷・再興九谷を中心として、古九谷の技術や様式に強い影響を与えた景徳鎮の五彩や、交趾。そして自由な造形感覚の源流となった織部に、加賀の地における色絵好みの重層性を再認識する一助となる野々村仁清と尾形乾山を加え、加賀文化の所産としての古九谷・再興九谷を歴史的に捉えなおす内容となっています。

■料金

	一般	大学生	高校生以下
個人	三五〇円	二八〇円	無料
団体	二八〇円	二二〇円	無料

色絵草花文深鉢　正院焼

2F 第2展示室

学芸員の眼

話題の色絵陶磁片が一堂に　昨年九月、加賀市の九谷古窯近くにある吉田屋窯時代の建物跡の周囲から色絵陶磁片が発見されました。作行きは吉田屋窯の伝世する作品とは異なるものです。九谷地区の吉田屋窯は、古九谷生産が行われたと見られる時代から約百年後に築かれた「再興九谷」時代の遺構ですが、吉田屋窯の建物を築造する時に、九谷古窯の物原（失敗作の処分場）から土を採取していることから、この陶磁片は古九谷時代のものと推定されます。今回加賀市の御厚意により、この陶磁片が展示されます。また、石川県埋蔵文化財センターが所蔵する九谷一号窯斜面下出土の色絵陶磁片と、九谷A遺跡出土の色絵陶磁片も併せて展示します。この機会を是非お見逃しなく。

前田育徳会尊經閣文庫分館

百万石大名の装い

6月5日（金）～7月20日（月・祝）
会期中無休

藩祖前田利家が金沢へ入城した天正十一年（一五八三）六月、その時期に合わせて前田家歴代藩主所用の甲冑・陣羽織と鞍・鐙などの武具を展示します。今回は、六代藩主吉徳から十四代慶寧までの甲冑と陣羽織をご覧いただきます。

日本の甲冑は、戦国時代に槍が普及し、天文十二年（一五四三）にわが国に鉄砲がもたらされたことにより大きく変わりました。戦闘方法が密集隊形による徒歩集団戦へと変化することにともない、戦いの中で、機敏な動きをするためにより軽い甲冑が求められたのです。また攻撃する武器が多様化し、強力化したことで、防具である甲冑の変化も促され、より頑丈なものが求められるようになりました。

こうした時代背景から、これまで作られてきた甲冑の様々な要素を組み合わせて、総合的に構成され生まれたのが当世具足です。具足とは、装具の完備した甲冑という意味であり、従来の大鎧、胴丸、腹巻などがそれだけで成り立っていたのに対して、当世具足は兜・面具・胴・袖と籠手・臑当・佩楯の七具すべて揃っている点が特徴です。

加賀藩では、京都から招いた職人の技術により、他藩では見られないほどの技巧を駆使した華やかな甲冑も生まれました。

黒塗筋十二間甲冑　六代前田吉徳所用

第5展示室

ガラスのきらめき

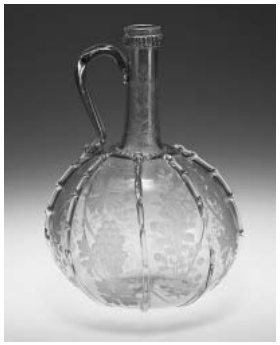
6月5日（金）～7月20日（月・祝）
会期中無休

ガラスの起源は、紀元前の古代メソポタミアやエジプトにさかのぼります。その美しさゆえに、また、化学知識と技を極めた職人のみが作り得ただけに「秘法」ともいわれたガラスの製造技術。しかし、高度な技術や多彩な技法が用いられるようになった今日でも、ガラス器ができるまでの基本的な流れは、昔とさほど変わりません。

珪石などを混ぜ合わせ、摂氏千四百度まで熱を加えてどろどろに溶かします。熱を加えたガラスは比較的簡単に形を変えることができ、目的に合わせて、型を利用したり、空気を吹き込んだりして成形します。成形後は、熱いうちに装飾し、完成するものと、ゆっくり冷ましてからカットや彩色を施すなどして装飾し完成させるものとにわかれます。

ガラス工芸は、世界各地でいろいろな成形・装飾技法がガラスに独特の表情を持たせるために使われてきました。そのことは、ガラス工芸の様々な技術の発展につながり、やがて、我々の日常まで続く豊かなガラスの暮らしを実現させてきました。

人類の手でガラスが作られるようになってから、四千年あまり。常に人々を魅了し続けづけてきたその宝石を思わせる「ガラスのきらめき」の世界を、今回は主に十六世紀から二十世紀にかけてヨーロッパで制作された作品でお楽しみください。



グラビール葡萄文把手付瓶　オランダ17世紀

第10回石川示現会展

第7展示室（午後5時閉室）

平成21年6月5日（金）～6月9日（火）

第六十二回公募「示現会展」は、国立新美術館に於いて本年四月に開催されました。今般、本展出品作品を中心に第十回石川示現会展を開催いたします。

二十二名が一人二点の大作を発表し県民の皆様にご鑑賞いただき、又、ご批評を賜ることにより私たち一人一人が研鑽の場として地域文化の向上を図るものです。日展傘下の示現会は、具象絵画の美術団体であり広く美術愛好家の鑑賞をいただいております。

設立は古く昭和二十二年で、（故）大内田茂士・（故）楢原健三両芸術院会員を中心に創立会員三十一名にて結成され現在に至っております。石川県にも近い内に支部設立の予定があり益々の発展を期待しています。

◇入場無料

◇連絡先／野々市町太平寺二－四十七
示現会石川県出品者協会代表　神田直次
電　話　〇七六（二四八）八一八六

石川県写真家協会展

第7展示室（午後6時閉室）

平成21年6月12日（金）～6月16日（火）

石川県を中心に活躍するフォトグラファーたちの作品を展示する石川県写真家協会展を開催します。

石川県写真家協会は昭和五十五年（一九八〇）に創立され、明年創立三〇周年の節目を迎えます。これまで、展覧会や写真技術の講座・講習会、中央から講師を招いての講演会など毎年様々な事業を行ってまいりました。

今回も優れた写真を全国や世界に向けて石川県から発信することを目的に、さまざまなシーンで活躍するプロの写真家の作品を一堂に展示いたします。この機会にぜひご来場ください。

◇入場無料

◇連絡先／金沢市神宮寺三－十四－十四
水野直樹
電　話　〇七六（二五三）二八八九

第13回石川県日本画協会展

第8・9展示室（午後5時閉室）

平成21年6月5日（金）～6月9日（火）

石川県内在住の日本画の作家を中心とした会員の、県内未発表作品による展覧会です。各種公募展の枠組みや既存の概念にとらわれることのない自由な作品発表を目指しています。ベテランから若手まで幅広い層にわたる会員の研究・模索した日本画の発表の場、研鑽の場となっています。広く県内の日本画家の作品および近年の活動を知る上で、絶好の機会となります。

◇入場無料

◇連絡先／輪島市鵜入町二－三十七
宮下一司
電　話　〇七六八（二二）七一四二

19回石川独立DO展

第8・9展示室（午後6時閉室）

平成21年6月12日（金）～6月16日（火）

石川独立は、昭和五十四年に県内在住の独立展出品者を中心にDO展として発足しました。

日本的フォービズム（野獣派）の流れを汲む独立展は、自由で個性強烈な作家を輩出していることで注目を集めています。

◇出品予定作家

大部雅子、金子顕司、京岡英樹、桑野幾子、田井淳、
西又浩二、堀一浩、前田さなみ、
三浦賢治、三科琢美、水野寿代、山田裕之

◇入場無料

◇連絡先／堀一浩
電　話　〇七六（二三二）九〇九一

第23回日本新工芸石川会展

第7展示室（午後5時閉室）

平成21年6月19日（金）～6月23日（火）

日本新工芸家連盟は現代の生活空間に潤いを与える造形美の確立を目指して、意欲的な創作活動を続けています。「美と生活の調和」を掲げている連盟の下で石川会会員一同、一層の努力を重ねております。今回の展覧会も本展の入選、受賞作品を中心に展示しています。多くの方々にご高覧、ご批判いただきたいと念願しております。

◇主な出品作家

北出不二雄、高光一生、榎木荘平、戸出克彦、松本昭二、向瀬孝之、高光一雅、原田実、伊豆蔵幸治、柴田博、金田一司、瀧川佐智子、伊藤寿江、川越美和、高森綾子、高光史也、中尾喜久二

◇入場無料

◇連絡先／金沢市宮野町ト七四　戸出克彦
電　話　〇七六（二五七）五九五一

第95回光風会展金沢展

第7～9展示室（午後6時閉室）

平成21年6月26日（金）～6月30日（火）

光風会は明治四十五年に、黒田清輝の「白馬会」解散を受けて、中沢弘光、三宅克己ら七人が発起人となり結成されました。常に文展、帝展、日展の中核として発展し、昭和二十九年に社団法人となり現在に至っています。

本県では高光一也や竹沢基、円地信二、松本昇などが活躍して石川の芸術文化の進展に貢献すると共に、後進の育成にも務めてきました。

今回の金沢展は、今春国立新美術館で開催された中から、基本作品九十一点と本県在住作家の作品四十七点（内基本作品三点）、計一三五点を展示いたします。

◇主な出品者

中央作家
庄司栄吉、清原啓一、寺坂公雄、藤森兼明（以上芸術院会員）、堀友三郎、岡部昭（以上理事　工芸）

地元作家
円地信二、松本昇

◇入場料

一　般七〇〇円（五〇〇円）
大学生三〇〇円（二〇〇円）、高校生以下無料
（　）内は前売り料金

＊当館友の会会員は、会員証提示で前売り料金になります。

◇連絡先／金沢市窪五－六一－六　西田伸一
電　話　〇七六（二四四）七四一一

第31回伝統加賀友禅工芸展

第8・9展示室（午後6時閉室）

平成21年6月19日（金）～6月23日（火）

加賀友禅の正統な技術保存と後継者育成のため、加賀友禅技術保存会が石川県の無形文化財に指定され、現在は七名の友禅作家が会員に認定されています。この展覧会はその主旨を推進するために毎年開催されているものであり、石川県の文化と加賀友禅業界の発展に対し重要な役割を担っています。現在、第一線で活躍している友禅作家が、新しい加賀友禅の創造を目指して制作した、新作の数々をご覧いただけます。

◇入場無料

◇連絡先　金沢市小将町八－八
加賀友禅伝統産業会館内
伝統加賀友禅工芸展事務局
電　話　〇七六（二二四）五五一一

6月の行事案内

土曜講座　午後一時三〇分～　会場／本館講義室　聴講無料

6日（土）	日本美術史4　近現代の絵画1　明治から昭和前半までの絵画　講師／二木伸一郎　学芸一課担当課長
13日（土）	日本美術史5　近現代の絵画2　戦後の絵画　講師／織田春樹　学芸主査
20日（土）	日本美術史6　仏教伝来と古代彫刻　講師／谷口　出　普及課長
27日（土）	日本美術史7　仏教の広がりと平安彫刻　講師／谷口　出　普及課長

ビデオ上映会　午後一時三〇分～　会場／本館ホール　入場無料

7日（日）	刺繍　福田喜重のわざ（34分）
21日（日）	桐塑人形　林　駒夫のわざ（37分）

講演会記録
加賀藩のものづくり工房
ー御細工所についてー

講師：嶋崎　丞
（石川県立美術館館長）

御細工所の創設

加賀藩では御細工所に「御」の字が付いているのは藩営（公立）を意味し、藩の武具の修復や、藩主御用などの細工業務を執り行う役所であり、藩の組織の一部です。そこに勤務する奉行は御細工奉行、職人は御細工者・御細工人といいます。二代利長の頃に武具御土蔵の蔵番でもあった井上権左衛門という手の器用な藩士が、管理をしながら修理を行ったのが始まりで、三代利常の時代に武具の補修を中心とする御細工所を、藩主の生活全般にわたる調度品の製作を行う場所として組織化が始まります。

御細工所の組織

貞享四年（一六八七）に綱紀は格式改め（組織改正）を行い、御細工所の機構も組織化し整備されます。奉行は御細工所の代表であり、職人の採用や技術評価の把握はもちろん、人事管理等職人の環境整備が主要な仕事であるとともに、御細工人だけでは賄いきれない場合は、城下の町方職人に応援を要請するための職人の把握も重要でした。享保の頃になりますと財政悪化による倹約もさらに重要な役目となりました。御細工者は技術の程度により、上・中・下・未練（未熟者）の四段階に、さらに上・中・下があり十段階に格付されます。四名の小頭（係長）が抜擢され、足軽は番人で参勤交代に随伴し、小者は足軽の補助職を勤めます。藩主の御用は、藩主自身が好みや考え方を直接御細工者に申し渡す場合もあり、御細工者は藩主に御目見得できるエリート集団でもあったようです。

御細工所の位置と施設の規模

利長の時代には特定される施設はなかったようで、利常の時代に現在の石川門を入って突き当たりにある城址公園の休憩館とその裏側を一帯とする場所に、土蔵二棟の中に御細工所三間があったとされています。綱紀の頃は、新丸、現在の裁判所裏の白鳥路にある三文豪の碑の上あたりに移っています。宝暦の大火以後、城外に転出し今日の中央公園の東側一帯に位置し、成巽閣や石川県立歴史博物館が所蔵する絵図によって、具体的に施設の内容を知ることができます。

御細工所の職務内容

武具甲冑の制作修復が主要な仕事で、御細工所の格式改め後の最大の仕事が六代吉徳の武具甲冑の制作であり、その細かい記録が残っておりますが、この甲冑は百万石祭りにあわせて六月に展示を予定しております。武具甲冑の細工人を春田細工といいますが、春田とは鎌倉から室町時代にかけて奈良を中心に栄えた甲冑師の家柄で、その流れをくむ職人を春田細工師と呼んでいます。百万石の加賀藩は侍の数が日本一多いわけで、参勤交代に着用した武具甲冑の修復だけでも大変な仕事でした。そのため、武具甲冑の修復は町方細工人の応援がなければできません。次に、藩主の生活調度や衣類の修復等がありますので、御細工者のなかでも針細工の需要が多かったようです。さらには参勤交代のお供も重要な仕事で、長い道中で傷んだ衣類や甲冑の修復に針細工が多数を占めていたようです。また、嗜み文化として茶の湯やお能がありますが、演能のシテ役以外は、御細工人が担当するのが加賀藩独特のやり方で、能の嗜みを持つことが御細工人の資格認定において重要なことでもありました。

御細工所の現代版として復興したのが江川市長時代の金沢卯辰山工芸工房です。また、金沢市では百工比照の今日版を制作されるようで、こうした世界を通して金沢の個性に身近に接することで、御細工所の存在が今日の工芸の原点であることを再認識できるのではないでしょうか。

（三月八日開催の講演会の要旨を、当館の責任においてまとめたものです。）

参加者募集 キッズ☆プログラム（小学生対象）
夏休み親子で体験講座 他

夏休み親子で体験講座

夏休みを利用した小学生向け講座です。親子で楽しく美術を体験しませんか？制作体験とバックヤード体験があります。

制作体験

制作体験講座です。親子で素敵な作品を作りましょう。会場はすべて広坂別館。できた作品は広坂別館に展示します。

応募締切り／すべて七月十日（金）必着
参加費／実費として千円程度
（応募方法は下段参照）

◆五・六年対象
「油絵に挑戦！」
七月二十七日（月）午後一時三十分～
定　員／十五組三十名
油絵の具を使って絵画に挑戦！

◆一・二年対象
「つみきでひかりのアート」
七月二十九日（水）
一年生／午前十時〇〇分～
二年生／午後一時三十分～
定　員／各回十五組三十名
木片で自分だけのランプシェードを作ろう！

◆三・四年生対象
「小さなおりものづくり」
七月三十一日（金）午後一時三十分～
定　員／十五組三十名
色糸で小さなおりものをつくります。

バックヤード体験ツアー
「うらがわ美術館」
八月八日（土）午後一時三十分～
会　場／講義室集合
定　員／親子十組二十名
参加費／無料
普段は入ることのできない収蔵庫、写真室、書庫、映写室など美術館のバックヤード（裏側）をたんけん！

応募締切り／七月二十一日（火）必着
（応募方法は下段参照）

九月以降のキッズプログラム

体験講座は下段の応募方法にしたがい、開催日の三週間前までに申し込んでください。（鑑賞講座は申し込み不要です。直接お越し下さい。）

◆**体験講座「ミニ屏風をつくろう」**
九月二十日（日）午後一時三十分～
会　場／講義室
参加費／三〇〇円
定　員／親子二十組

◇**鑑賞講座「どうぶつがいっぱい」**
十月十一日（日）午後一時三十分～
会　場／講義室、展示室
参加費／無料

◇**鑑賞講座「工芸王国のひみつをたんけん！」**
平成二十二年三月七日（日）午後一時三十分～
会　場／講義室、展示室
参加費／無料

◆**体験講座「きじっこ茶会」**
第一回
十月四日（日）午後一時三十分～
第二回
平成二十二年一月二十四日（日）
午後一時三十分～
会　場／広坂別館茶室
参加費／各回八〇〇円
定　員／各回親子十組二十名

体験講座応募方法
往復はがきでお申し込み下さい。

往信の宛名面
〒九二〇－〇九六三
金沢市出羽町二－一
石川県立美術館　普及課宛

往信の文面
・参加を希望する講座名
・保護者、児童の氏名
・学年
・住所、電話番号

返信の宛名面
・住所、お名前

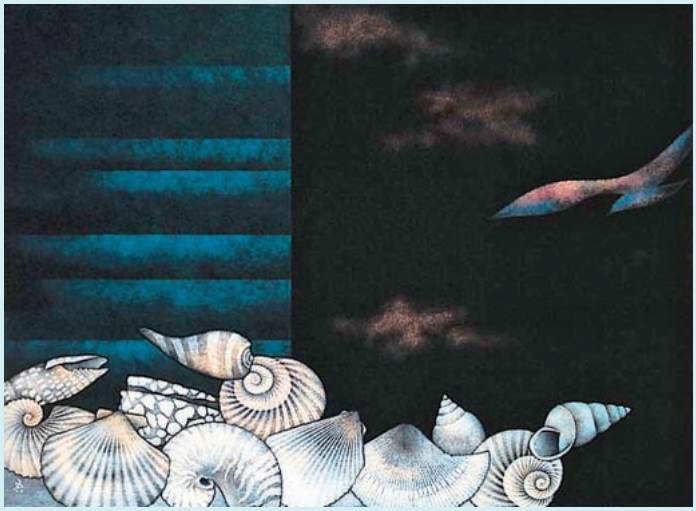
返信の文面
・なにも書かないで下さい。

※定員を上回った場合は抽選になります。応募締切り後、抽選結果を返信します。

海の詩 うみのうた

所蔵品紹介198

三谷吾一　みたにごいち　平成元年（1989）



画面左手前に並ぶ、ほとんど色が失われて白化した貝は、おそらくすべて中に住まう主のいない殻です。青の不規則な段で表現された画面左側には海が、右側にはところどころ雲が流れてカモメが漂う空が描かれていますが、明確な輪郭と実在感のある貝に比べて、海と空は幻のようにはかなげです。あるいは、このイメージのすべてが貝の紡ぎ出した夢、太古の昔から変わらない海の営みの詩なのかもしれません。

昭和六十三年に日本芸術院賞を受賞した「潮風」と同じく、貝をテーマとした連作の一つです。師の一人である沈金の人間国宝・前大峰にも通じる、精緻で表現豊かな点彫り沈金を駆使して、貝や鳥、雲などを表し、さらにアルミ粉や色漆を用いた透明感のある色彩が華やかさを添えています。幾何学的な海と、叙情的な空、写実的な貝の、各々の表現が調和した、見る者にさまざまなイメージを呼び起こす作品です。

作者の三谷吾一は輪島市に生まれ、昭和八年から蕨舞洲（わらびぶしゅう）に、同十三年から前大峰に師事して沈金を学びました。同十七年第五回新文展に初入選し、以後日展で活躍しています。輪島塗技術保存会会長であり、平成十四年には日本芸術院会員となっています。

次回の展覧会

前田育徳会尊経閣文庫分館	第2展示室（古美術）	第5展示室（近現代工芸）	企画展示室
国宝「北山抄」 －平成時代の儀式書－ 7月24日(金)～8月23日(日)	「浮世絵」 －夏祭りに夕涼み－ 7月24日(金)～8月23日(日)	「ガラスのきらめき」 7月24日(金)～8月23日(日)	「アンリ・リヴィエール展」 7月24日(金)～8月23日(日)

ご利用案内

コレクション展観覧料
一　般　350円(280円)
大学生　280円(220円)
高校生以下　無料
※(　　)内は団体料金

今月の開館時間
午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間
午前10:00～午後7:00

―― 6月の休館日は2日(火)～4日(木)です。 ――

石川県立美術館だより　第308号
2009年6月1日発行〈毎月発行〉
〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580　Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/